

資本主義と世界経済の現実

令和5年11月17日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

資本における経済の支配は、新しいマネーシステムと経済システムを計画し、その永続する自己プレゼンスを模索するものである。

資本主義は、必ず資本がこれを決定するのである。これが世界経済の現実なのである。

これが資本という原理なのである。経済は必ずこれに追従するものである。

経済は、このもと自己を得るものであり、決定は必ず資本によるものなのである。

これが資本主義の原則なのである。マルクス主義はこれらとの戦いであったのである。

これらはシカゴ学派における自由経済システムへの信奉への矛盾なのである。

これにおいて岸田総理が提唱する新資本主義は、公正な富の分配を基本に、新しい経済システムの提案を実現できるのである。

これらは、新しい社会思想であるベーシックインカムとともに、新しい世界の創造を提案できるのである。

これらは自由経済システムが、資本におけるコントロールを有することに対して、新しい経済システムの提案を行うことができるのであり、これらは日本的な風土における日本的経済システムにおける新しいグローバル経済の枠組みを提案できると考えるものである。

これらは競争原理という西洋の現実に対して、日本の和という思想が、世界において受け入れられ得ることは可能なのである。なぜならば、競争と格差という現実が彼らにおいて存在するためである。

世界は新たな自己の枠組みにおいて未来を求められるのである。